

平成 30 年度第 4 回委員会会議録（案）

会議の名称	平成 30 年度第 4 回西東京市地域福祉計画策定・普及推進委員会
開催日時	平成 30 年 8 月 21 日（火） 午後 7 時から午後 8 時 45 分まで
開催場所	西東京市役所保谷庁舎 1 階会議室
出席者	<p>【委員】熊田委員（委員長）、伊藤委員（副委員長）、滝沢委員、篠宮委員、妻屋委員、中野委員、渡辺委員、櫻井委員、小野委員</p> <p>（欠席者）中村委員</p> <p>【事務局】健康福祉部長、生活福祉課長、生活福祉課 3 名</p>
議題	<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>（1）前回会議録の確認について</p> <p>（2）骨子案について</p> <p>（3）施策展開のレイアウトについて</p> <p>（4）ネットワーク事業について</p> <p>（5）その他</p>
会議資料の名称	<p>資料 1 平成 30 年度第 3 回委員会会議録（案）</p> <p>資料 2 第 4 期西東京市地域福祉計画骨子案</p> <p>資料 3 施策の展開のレイアウトについて</p> <p>資料 4 ネットワーク事業の整備について</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>（1）前回会議録の確認について</p> <p>○ 委員長</p> <p>前回会議録は事前に事務局から送付されているが、修正、ご意見等はないか。</p> <p>○ 委員</p> <p>11 ページの下から 3 つ目の○の発言の最後の行の「といような」は、「というような」に修正をお願いします。</p> <p>○ 委員長</p> <p>誤字である。修正をお願いします。他になれば確定する。</p> <p>（2）骨子案について</p>	

○ 事務局 ———資料 2 に沿って説明———

○ 委員長

12 ページ「西東京市の状況」のところに、「詳細データは資料編掲載予定」と書かれているが、そこには調査データ等の細かい内容を全部載せるのか。

○ 事務局

調査データの掲載内容については、第 3 期計画の資料編のような形で載せる予定である。

○ 委員長

その場合に、例えば、「詳しくは〇〇ページです」というように、その根拠が載っているところに飛べるように具体的にページ数を示すとよい。前半を簡略化すればするほど、なぜそう言えるのかについて気になる市民もいると思うので、対応関係が見える形でまとめていただきたい。

○ 委員

1 ページの計画の期間について、平成 31 年度にも西暦を入れた方がよい。

4 ページ「第 3 期計画期間中の国の主な動き」の、平成 29 年の「報告書・会議関係」のところに「報告書最終とりまとめ」と書かれている「報告書」という文言は付いていなかったもので、確認いただきたい。

7 ページの図について、総合計画を一番上に置いて、地域福祉計画、その下に社協の地域福祉活動計画という形に修正して、すっきりと理解できるようになったと思う。一番下の「西東京市社会福祉協議会地域福祉活動計画」については、第 3 期と同様に「地域福祉活動計画（西東京市社会福祉協議会）」としたほうがいい。また、「子育て・子育てワイワイプラン」について、正式名称は子育て支援計画ではないか。

9 ページの「(6) パブリックコメント・市民説明会」について、市民説明会には人数を入れるようになっているが、パブリックコメントについては、人数は入れないのか。

13 ページの「(3) 世帯の変化」の「世帯類型」の絵について、「単独世帯」のところが若者 1 人のイラストになっている。実際には高齢者の 1 人世帯も多いと思うが、イラストに惑わされるのではないか。

21 ページの、第 3 章「計画の目指すもの」の図について、上は「地域においては」、下は「行政においては」という絵なのだと思うが、上と下のつながりが見えないので、連携が分かるようにしたほうがいいと思う。

○ 委員長

1 ページの、計画期間の西暦の表示については、単なる誤植だろうと思うが、いかがか。

○ 事務局

漏れていた。

○ 委員長

元号が変わるので西暦をメインで書いたほうがいいというご指摘は、そのとおりだと思うので、そのように修正をお願いします。

4 ページの「地域力強化検討会報告書最終とりまとめ」について、「報告書」という言葉がなかったというご指摘については、確認して正式な言葉を入れていただくようお願いする。

7 ページの計画の名称については、「子育て・子育てワイワイプラン」は愛称ではないか。そこに挙がっている他の高齢者、障害者、健康づくりの計画には愛称がない。その辺の統一性のご指摘だと思う。

○ 委員

上の本文には、括弧書きで正式名称が書かれている。

○ 委員長

確かに、本文には正式名称が書かれている。事務局としては、愛称を前面に押し出して、覚えてもらいたいという意図もあると思う。正式名称を括弧で載せるというやり方もあるが、これだけ括弧書きが付いているのも、統一性がないとも言える。

○ 事務局

委員長がおっしゃったとおり、事務局としては基本的には愛称を使っており、前回の計画でも、「子育て・子育てワイワイプラン」という表記をしている。もし正確な表記をするとなると、ここにある全ての計画の頭に「西東京市」を付けなければいけない。ただ、「プラン」と「計画」が混在しているのも事実なので、なるべく違和感がない表記にしたいと思う。

○ 委員長

では、愛称のほうが親しみやすさは出ると思うので、「子育て・子育てワイワイプラン」の名称については、このままとしたい。

その下の「西東京市社会福祉協議会地域福祉活動計画」について、前計画では社会福祉協議会が括弧書きだった。今回は、なぜこの表記にしたのかというご質問についてはいかがか。

○ 事務局

ここは特に意図があって変えたわけではないので、第3期計画と同様の形でよい。

○ 委員長

「地域福祉活動計画」を前に出して、括弧書きで社協を入れる形に修正をお願いする。
9ページの、パブリックコメントにも人数も書いてはどうかというご意見についてはいかがか。

○ 事務局

地域福祉計画では前計画も書いていなかったが、確か、他の計画では書いていると思うので、ご指摘を踏まえて、パブリックコメントにも人数を入れたいと思う。

○ 委員長

13ページの、単独世帯のイラストが若い男性になっているが、実態は高齢者が多いのではないかというご指摘については、事務局として何か意図されたことはあるか。

○ 事務局

特にない。

○ 委員長

確かに、高齢者の3分の1以上が単独世帯というデータもあったと思うので、ご指摘ように、ここのイラストは高齢者1人の絵にしたほうが実態にかなっているかもしれない。

○ 委員長

若い人の場合、住民票を移してない可能性もあり、実際には1人で住んでいても、それが住民票に反映されてない部分もあると思われる。そういう意味では、若い人の絵でも問題ないかもしれない。

正確に出すのであれば、単独世帯の年齢のデータを入れるという方法もあるが、そこまでしなくてもいいと思う。ただ、実態のデータに基づいた形にはしたほうがいいと思うので、確認して、それを反映した絵にさせていただくようお願いします。

最後に、21ページのイメージ図については、上は地域が描かれていて、下に専門職が載っているが、その関係性が見えないというご指摘でよろしいか。

○ 委員

計画の目指すものは地域共生社会だと言っている絵なのに、上と下が分かれていて、どこが共生なのかが分からなかった。

○ 委員長

事務局はどういう意図でこのような図にされたのか。

○ 事務局

印刷がうすく見づらいが、下には手の絵が入っていて、支えていくということを表している。

○ 委員

行政が支えていくということか。

○ 事務局

包括するというイメージである。

○ 委員長

下は行政という意味ではないと思う。上が「我が事」、下が「丸ごと」で、我が事としてみんなが交流して、専門機関・団体がそれを丸ごと支えるというイメージだと思う。

○ 委員

上の文章には、「行政においては」と書かれている。

○ 委員長

厳密には「行政をはじめ、各専門機関が……」と書くべきかもしれないが、「あらゆる分野、あらゆる機関が連携し」とあるので、そこで社協、病院等のさまざまな機関が入っているということを表しているのだろう。その意図がこの描き方では見えづらいというご指摘だと思う。

○ 委員

図の中に「我が事」「丸ごと」と書くとか、もしくは、下で包括して支えているということは何らかの形で示してはどうか。

○ 委員

「我が事・丸ごと」を前提に見れば、市民側で担える部分と、専門的な知識や背景によってサポートできる部分があって、専門的な部分の側面支援とかバックアップを手で表現しているという意図は分かるが、見やすいかと問われると、見にくいと思う。こういう表し方よりも、土台で専門的なところがサポートし、それに基づいてつながりづくりがあり、地域の皆さんが主体的に動く場面があるというように、積み木を重ねた形のほうが分かり

やすいのではないかと思った。

○ 委員

ベースの専門的な部分が、ただ書類を見ているような絵になっていて、住民と専門機関が離れている感じを受けるので、つながりがあるようなイメージになるといいと思う。

○ 委員長

住民と専門機関が一緒にやっている協働のイメージが見えにくいというのは、ご指摘のとおりだと思うので、そこを出せるように、もうひとひねりしていただければと思う。

○ 委員

私も上と下が懸け離れた感じがしていた。専門機関が温かく支えてくれますよ、サポートをいくらでもしてあげますよ、包んであげますよというような優しさを感じ取れるような図になるといいと思う。

○ 委員

そもそも、下が行政や専門機関を示しているというのが分かりづらい。イラストで示している中で文字を増やすのがどうなのかは分からないが、行政や専門機関というフレーズを下のところに入れてもいいかもしれないと思った。

○ 委員

手の絵については、説明を聞いてなるほどと思った。下の部分に説明があるといいのではないと思う。例えば、真ん中は絵の中に「相談窓口」という文字が入っているが、このような形で入れてはどうか。

○ 副委員長

あらゆる機関のところは今の描き方では、壁の中で仕事をしているようで、住民と一緒にという感じが出ておらず、支えているという感じが伝わりにくいように思う。

○ 委員長

幾つか大事なポイントを頂いた。「我が事・丸ごと」が分かりにくいという点、また、住民と行政と一緒にやっている感じが見えにくいという点については、やはり、地域をベースにして、専門機関と住民が乗っているようなイメージのほうが望ましいかもしれない。

○ 委員

成果と課題のところの整理の仕方は、ご提案の形でいいと思う。

1 ページの一番上の、「どんな計画？」のところについて、いきなり「暮らしやすい地域づくりを進めるための計画です」と書かれているが、「暮らしやすい」といっても、皆さんのイメージはさまざまだと思う。6 ページの「地域福祉とは」を見ると、こんな地域づくり、まちづくりをしていくのだということが分かるが、1 ページはダイジェストとはいえ、「暮らしやすい地域づくり」だけでは伝えたいことが伝わらないのではないかという疑問を抱いた。

○ 委員長

「計画見取り図」のところは、ご指摘のとおり唐突な感じもあって、まだ粗い。今後、計画の内容が詰まっていくに従って、ここもチューニングしていく形になると思うが、今の小野委員のご指摘を踏まえて、もう少しストーリー性が見える形にしていければと思っている。

アンケート結果の字が小さいのが気になったが、皆さんはどう思われるか。

○ 副委員長

確かに見にくい。字の間隔やフォントの工夫でもう少し見やすくできるのではないか。

○ 委員長

内容はこのくらいの情報でいいと思うので、見せ方を工夫してもう少し見やすくしてもらいたい。

○ 委員

6 ページの、自助、互助、共助、公助の表について、説明の「自助」の内容が、「あいさつなど」となっているが、ざっくりし過ぎているように思う。自助の説明として、あいさつだけでいいのか。

○ 委員長

ご指摘のとおりだと思う。「自助」は自分でできることは自分ですということであり、あいさつは自助的なものよりも互助的なものとして捉えがちだと思うので、例えば、自分の健康維持を図るといったことのほうが適当かもしれない。こちらの箇所の内容は再度検討していただきたい。

(3) 施策展開のレイアウトについて

○ 事務局 ————資料 3 に沿って説明———

○ 委員長

施策の展開のレイアウトについては、第3期では66ページのような形で載せていた。

資料3の3ページの地域案Aは、第3期の計画を踏襲した見せ方である。この特徴は、地域で取り組むことが空欄になっているという点で、地域で取り組むことは地域の皆さんで書き込んでみましょうという形にしているのが肝となっている。ただ、その下には、「例えば・・・」として、あいさつ、声掛け、茶話会といった例を入れている。

4ページの地域案Bは、地域での取り組みを空欄にせずに、勉強会の開催、雰囲気づくりといった案を枠の中に入れた形である。前は、なぜここを空欄にしたかという、市からやることを指示されるのは少し違うのではないかと考えたことと、基本的に市民が考えるべき問題なのだから、住民が書いたほうが良いということで空欄にした。ただ、果たして書き込んで使った人がどれだけいたのか、空欄が実際に使われないのであれば、そこに案を入れたほうが良いのではないかという意見もあったことから、案Bをお示ししている。

「市が取り組むこと」については、案Aは文章をメインにした形、案Bは事業名をメインで見せる形になっている。どちらが分かりやすいかは、好みもあると思うので、ご意見を頂ければと思っている。

「事例集」は載せたほうが良いと思っているが、その載せ方について、後ろに付けてもほぼ見ないだろうから、本体の中に事例集を入れ込むとか、コラムのような形で載せてはどうかという案である。このような形のほうが見てもらう可能性は高いと思う。ただ、事務局が説明したように、これらの事例は別に計画のためにやっていることではないとか、全てについて事例があるわけではないとか、載らない取り組みも出てくるといった短所もある。

以上、補足で説明させていただいたが、お気付きの点、ご意見等ないか。今日、どの案にするかを決めるよう事務局から求められているので、決めたいと思っている。他に斬新なアイデアがあれば、そういう意見も頂ければと思う。

○ 委員

「地域で取り組むこと」に関しては、私は案Bのほうが良いと思う。正直、ここの委員になって初めてこの計画を開いた時に、空欄にびっくりした。もちろん、地域主体で取り組むのが大前提ではあるが、こんなことをすればこんな問題が解決の方向に導かれるのではないかといった例示は、ある程度示してもらったほうが、「では、やってみようか」となるきっかけになると思う。

「市が取り組むこと」に関しては、具体的に事業が載っていたほうが、この事業はこういう目的でやっているということが分かるので、案Bのほうが良いと思う。

事例集に関しては、それぞれの項目の所にコラム的に事例が入っていると関連付けはしやすいが、項目によって、たくさんコラムが入ってくところもあれば、全然無いところもあるというふうに偏りが生じたり、どこに入れるべきか迷うような事例もあったりする

のではないかと思った。

○ 委員長

事例集の案Bについて、もう少し補足させていただきたい。実は当初は、「地域で取り組むこと」を空欄にして、その下に事例集を入れるというやり方を考えていた。勉強会をしましょうとか、雰囲気づくりをしましょうといった例を示すのではなく、実際に西東京市ではこんな取り組みをやっています、こんなことができますということを見せて、地域で取り組むことを考えていただくというのが望ましいのではないかと考えたからである。

事例が多いところや無いところが出てくるという点については、そのことによって西東京市の強いところ、弱いところが見えると思うので、事例が載ってないところでは、パイオニアになりませんかというメッセージを出すこともできる。ただ、事務局サイドの手間を考えて、巻末にまとめて載せたほうが良いという意見もあるだろうと思う。

○ 委員

地域案は案Bが良いと思う。ただ、この表記の仕方だと押し付けに見えてしまうので、「例えば」と最初に入れてはどうか。また、「勉強会を開催しましょう」「雰囲気をつくりましょう」という表現も押し付けに感じるので、こういうことをやるというのではないでしょうかというように、提案する文章にしたほうが良いように思う。

「市が取り組むこと」については、案Bのほうが分かりやすくいいと思った。案Aのほうは、漠然といろいろな課が存在していて、これに対してはここというのが全く分からず、窓口に行く時などに迷ってしまうと思う。

事例集については、私は、本体の中に事例1、事例2という形で載せるのは反対である。こういう形で載せていると、意図を勘繰る人もいるかもしれないので、やはり、巻末にまとめて載せる形が一番すっきりすると思う。

○ 委員

私もほぼ同じ意見で、どちらも案Bが良いと思う。ただ、やはり言葉遣いが難しいと思った。例えば「市民が取り組むこと」は、当事者の意識を持てばいろいろな問題解決方法が出るかもしれないのに、勉強会の開催、雰囲気づくりといった、定型的、模範的なものが出てると、それ以上の発想が出てこなくなってしまうのではないかという心配がある。一方で、無いよりはあったほうが良いのかもしれないという思いもある。

事例集については、載せることは賛成である。その理由は、どのような団体が何をしているかという具体的な事例は、とてもアドバイスになると思うからである。ただ、どのように表すかは一工夫が必要だと思う。また、「ゆめこらぼ」等でNPO関係の団体の事例集を毎年更新して出しているの、その辺との関係も含めて考える必要がある。

○ 委員

「地域で取り組むこと」は、私も案Bがいいと思う。ただ、「勉強会の開催」、「雰囲気づくり」などと出ていると、そこに縛られて幅が広がらないかもしれないと思った。

事例集に関しては、私自身は、巻末に一覧で羅列されている形だとおそらく見ないため、本文の中で、このような住民が中心となってこんな取り組みをされていますという形で載っていたほうが良いと思う。ただ、市内にはいろいろな団体があるので、どれを載せるかが難しいだろうと思った。

○ 委員

事例集はあったほうが良いと思う。載せ方については、ある程度まとまった形で載せたほうが良いというイメージは持っているが、案Aも案Bもいま一つという感じがする。例えば、地域案Aの空欄を無くして、「地域で取り組むこと」の後に、「例えば・・・」の例示を載せて、例示の最後に、「〇〇ページに現在活動している事例集がありますので、参考にして考えてみてください」というように書いてはどうか。つまり、幾つか簡単な例を列挙しつつ、巻末に載っている実際の活動事例も見て、自分にできることを考えてほしいという発信の仕方である。そうすれば、案Bのような、限られた提案で「やりましょう」という感じではなく、自分で考えたり、選ぶことができたりして、選択肢が広がるのではないかと思う。

「市が取り組むこと」については、案Aがいいか、案Bがいいか、選びかねている。

○ 委員

私は、「地域で取り組むこと」は案Aがいいと思う。なぜなら、西東京市には圏域が4つあって、それぞれの地域によって考え方や地域資源が違うので、地域ごとに考えて取り組んでもらったほうが良いと思うからである。案Bの場合、勉強会をしましょうということになったとして、では誰が音頭を取るのかということになりかねないし、人集めも大変だと思う。地域は案Aにして、その下に市は案Bを持ってくるといいと思う。

事例集については、特定の団体を載せると宣伝のような要素が入ってくるとか、有償のものや無料でやっているところもあるといった問題もあるので、どのように載せるかが難しいと思う。例えば、今、社協でやっている取り組みが22くらいあると思うが、その中からピックアップして載せるといいのではないか。

○ 委員

縁側プロジェクトを含めると、社協が関係している取り組みは50くらいある。

○ 委員

その中から、カフェ、傾聴ボランティア、ふれまち等の活動をポイントで載せるといい

と思う。

○ 委員

「地域で取り組むこと」については、私も案Aを見た時に、前回はこの空欄をどのくらいの人が活用したのだろうかと感じた。そこで、全くの空欄ではなく、例を幾つか書いて、その下1、2行を「その他」のような形で空欄にして、そこは住民に書き込んでもらうという、案Aと案Bの複合型がいいのではないかと思った。

「市が取り組むこと」については、これはここの課がやるということが明確な案Bが分かりやすいと思う。

事例集については、案Bのように本体の中に入れ込む形は、関連付いて見やすいとは思いますが、ただ、文中では事例数が限られてしまう。事例は必要な人が見ればよいと思うので、事例集という形で巻末にまとめたほうがよいと思う。

○ 副委員長

前回の計画策定に関わっているということもあり、「地域で取り組むこと」を空白にすることには賛成である。この計画は地域・住民が主体と言っているが、ここに例示を入れてしまうと、それに縛られてしまう可能性がある。空白にすることで、地域で考えてくださいという姿勢が表せる。空白欄をどのくらい使われたのかというのは確かに気になるが、使われていないのであれば、使ってもらうような方法のほうを考えるべきだと思う。

市案については、案Bが、どこが何をやるのかという具体的なところが示されていて分かりやすいと思う。

事例集については、事例集の存在は大賛成だが、計画の中に入れるということについては判断しかねる。ただ、情報不足や、つながりがないという意見もある中で、情報としては提供したほうがよいので、市の広報紙なり、支援活動のタウンページのようなものを別に作るなど、情報の保障というところを計画の実施の一環としてやると思う。なお、市の広報紙に載せる際には、掲載の希望の有無を採る必要が出てくると思う。もしダイジェスト版を作るのであれば、ダイジェスト版の中に資料集として入れるという形でもいいと思う。

○ 委員長

頂いた意見をまとめると、市案については案Bを推す方が多いが、案Aの良いところも生かすという意見もあったので、ベースは案Bで、少し工夫を加えることにしたい。

地域案については、いろいろな意見があった。案Bは、どのように書くかが大変難しく、空欄のほうが取り扱いやすいということはあるが、一方で、何も書いてないと、何をすればいいのか分からないという人も出てくると思われるので、例えば、ご意見にあったように、空欄をもう少し小さくするとか、「例えば・・・」というところの取り扱いをうまくで

きるといいのではないかと思った。案Aについての意見も、おっしゃるとおりだと思った。また、空欄を使ってもらうことが重要というご指摘もそのとおりで、空欄を残すのであれば、使ってもらうようにどうプロモートをかけていくかというところも大事だと思った。

空欄のところにあらかじめ言葉を入れてしまうと、これはいいのか、いけないのかということが、また議論になるだろうと思う。そこも含めて、意見を頂ければと思う。案Aのほうも下に例を出しているが、ボックスに入れてないというところが肝になっている。ボックスの中に書き込むのか、それともボックスは空欄にして、考えてもらう仕掛けを併せてつくるかというところがポイントになると思うが、いかがか。

○ 委員

空欄をつくるのはいいことだと思う。案Aの「例えば・・・」を上を持ってきて、下を、皆さんで考えてくださいという空欄にすれば、住民も考えやすいのではないかと思う。

○ 委員長

ベースは案Bで案Aの空欄も残す、つまり案Aの空欄と例示の場所を逆にする形で整理していただければと思う。

○ 委員

行政が責任を持ってこの計画を作っているということで「市が取り組むこと」という表現でいいと思うが、「地域で取り組むこと」については、強制的な感じがするので、「地域で取り組めること」としてはどうか。

○ 委員長

では、地域案については「地域で取り組めること」という表現にして、整理をすることとしたい。

事例集については、文中には入れないほうがいいというご意見が大半だった。ただ、何のために事例集を載せるのかというところを考えると、巻末に載せて誰も見ないのであれば、事例集を載せる意味がない。事例集をどうするかについては、今日結論を出さなくてもいいので、どの団体を載せてどの団体を載せないのか、別冊にするのか、何のために事例集を載せるのか、そもそも載せないということも含め、継続的な議論ということにさせていただきます。

(4) ネットワーク事業について

○ 事務局 ————資料4に沿って説明—————

○ 委員長

ネットワーク事業については、第3期計画の時にも、41ページの「団体同士や西東京市全体でのネットワークづくり」のところで整理を図っている。「課題ベース」がほんとネット、「対象者ベース」がささえあいネットワーク、「地域ベース」がふれまちという形で、うまく整理できたと思っていたが、5年経過した現在でも、これらの違いがよく分からないという話が延々と続いているため、そろそろそこに着手する必要があるというのが、この議題を提案したベースになっている。つまり、単にこの3つのネットワークを合体させたいという趣旨ではなく、分かりにくいところをどうすればいいかを考えるということである。

確かに、住民からすれば、同じようなものが同じように走っているようにも見えと思う。実は、管轄する課が違っているなど、違いがあるのだが、いろいろと建て増しする中で複雑になってしまっているというのも事実である。そこで、今回そこに一気に手を付けたほうがいいのではないかとということで、今回、提案した。

○ 委員

私は地域協力ネットワークの南部の役員をしている。地域協力ネットワークは南部が最初に発足し、その後、西部が発足して、あと、北東部と中部は残っている。4つの圏域全てにつくるというのが市長の方針であるし、地域ごとに悩みが違うという実情もあるので、絶対にこのネットワークは4圏域それぞれでつくらなければいけないと考える。ネットワークを1つに統合してしまうと、市長の方針からずれることにもなるので、地域協力ネットワークについては、ネットワークを統合させるのは非常に厳しいと思う。

○ 事務局

ご意見のとおり、4つ挙げられているネットワークの中で、大きく違うのは、地域協力ネットワークだけはまだ完成に至っていないという点である。今後数年間で完成すると思うが、それも含め、第4期地域福祉計画の計画期間の中で、全てのネットワークを整理することが本当に可能なのかというのは、大きな課題と認識している。ただ、ネットワークの整理が必要ということは保健福祉審議会からも言われているので、その辺も踏まえて今後の議論をしていただきたいと思っている。

○ 委員長

この4つのネットワークの中で、地域協力ネットワークだけが生活文化スポーツ部で、あとは全部、健康福祉部の管轄ということ、かつ、地域協力ネットワークはまだ完成していないということを考えると、まず健康福祉部関係の3つのネットワークの整理から着手するのが筋だろうと思う。つまり、地域協力ネットワークについては、今回は手を付けないということも含めて、議論するということである。

○ 副委員長

ネットワーク事業の整理について今後議論するということだが、この委員会に求められている議論の方向性と終着点を確認させていただきたい。ここの委員会はどこまで踏み込んで議論できるのか。あるいは、どこまで議論するという整理もここの委員会でするのか。

また、活動が重複していて非効率という指摘があるということだが、課題が同じだとしても、例えば、検討するテーマが違って、それに該当する方たちが活動しているのであれば、それは効率的で、むしろ、同じところでいろいろなことを全部話し合うほうが、負担が広がると思う。

○ 事務局

今日は頭出しで、正式な議論は今後詰めていくことになるが、おっしゃったような課題については、事務局から示すべく、準備したいと思っている。

○ 委員

ある目的で1つ目のネットワークができて、そこでは足りない部分について、2つ目のネットワークができたという形で増えてきて、それぞれが膨張したのだろうと思うので、その歴史を教えていただきたい。ここは何のためにできたネットワークなのかという原点が分かれば、どことどこは統合できるとか、これは必要ないといったところが整理できると思う。

○ 事務局

検討したい。

○ 委員長

ゴールを我々の中で全部決めるわけではないと思うが、何を決めて何を決めないのかというところは共有する必要があると思う。そもそもの成り立ちを知るということは重要だと思うので、どういう経緯でできたかを確認できる資料を準備していただけるとありがたい。

今後の進め方としては、どこまでここで決定するかなど、事務局といろいろな部署との調整も必要になると思うが、次回からいきなり取り組むのか。それとも、以降少しずつというイメージか。

○ 事務局

先ほどご意見を頂いた情報等を取りまとめた上で、次回以降に少しずつ議論を進めていただければと考えている。

○ 委員長

この件については、合体ありきではなく、ネットワークがいろいろあって分かりにくいということがベースになっているので、分かりやすい仕組みにするにはどうしたらいいかという観点で、少し考えておいていただけるとありがたい。

(5) その他

○ 事務局

熱心なご議論を頂き、お礼申し上げます。

次回会議は、10 月 16 日火曜日を予定している。詳細は後日事務局からご連絡させていただきます。

○ 委員長

次回の 10 月の委員会にもぜひご参集いただくよう、お願いします。

以上で、第 4 回地域福祉計画策定・普及推進委員会を終了する。